

代表質問

この定例会では、議案や市政全般について、各会派を代表して5人の議員が質問し、活発な議論を展開しました。

その概要は、次のとおりです。

なお、各会派の紙面の割合は、会派所属議員数に応じて案分しています。

| 会派名 | 議員数 | 質問時間 |
|-------|-----|------|
| 水曜会 | 13人 | 120分 |
| 公明党 | 7人 | 120分 |
| 誠友会 | 6人 | 120分 |
| 新政クラブ | 3人 | 120分 |
| 市民連合 | 3人 | 120分 |

*代表質問の録画放送をインターネットで見ることができます。(詳細は下段)

水曜会



子育て支援策の強化は

問

今年度の重点政策で、医療費補助の所得制限撤廃などの子育て支援策の強化、それを含む人口減少対策の強化として安心・快適な暮らしの実現等を掲げているが、どう取り組むのか。

答

人口減少社会にあっても、誰もが安心・快適に暮らせるまちの実現に向けて、何よりもまず福山ネウボラの強化に全力で取り組む。このため、出産、子育てに係る費用の軽減、保育サービスの充実と医療提供体制の確保、子どもと楽しめる場所などの創出、仕事と子育ての両立支援、気軽に相談できる環境づくりの5つの強化ポイントを定め、取り組みを進める。併せて、こうした子育て施策を分かりやすく市内外に発信していくことで「子育て世代に選ばれるまち」にしていく。

マイナンバーカード交付事業は

①本市のマイナンバーカードの交付率は。

②国は現在使われている健康保険証を令和6年の秋に廃止し、マイナンバーカードと一体化する方針である。システム導入など、一体化までの具体および本市における対応可能な医療機関などの現状は。

③2月末現在、66・7%で全国平均を上回っている。

④国は、保険証廃止の後にはカード

調整区域内の農地の利活用は

問

令和2年4月に立地適正化計画が策定された。50戸連たん制度も2年間の猶予期間を経て廃止され、調整区域の農地転用は大変難しい状況である。調整区域内の農地は農業生産物の価格低迷や高齢化に伴う後継者難なども相まって利用が低迷し耕作放棄の流れが加速して有害鳥獣を呼び寄せるなど住環境の悪化につながっている。弾力的な運用は喫緊の課題と考えるが、

によるオンライン資格確認を基本としつつ、カードを紛失またはまだ持っていない方については、資格確認書によることなどを盛り込んだ中間とりまとめを2月に示した。この資格確認書は、本人の申請に基づき書面または電磁的方法により保険者が提供すること、有効期間は1年を限度とし保険者が設定すること、発行は無償とすることなど具体的な取り扱いが現在検討されている。

また、医療機関などのシステム導入状況は、2月19日現在で866施設中429施設である。

答

これまでも分家住宅や大規模既存集落内の小規模工場などの日常生活やコミュニケーション維持に必要な建築物の建築について条例で用途を定め、許可してきた。また、有料老人ホームや流通業務施設の建築、既存の中小企業の事業効率化のための敷地拡大など市街化を促進する恐れのないものについては開発審査会を経て許可してきた。今後、農業従事者のさらなる高齢化や後継者不足が懸念される中で市街化調整区域内の農地の動向やニーズを把握しながら弾力的な運用について検討を深める。

*録画放送の視聴方法

各議員記事のQRコードをスマートフォンなどで読み取ると、代表質問の録画が視聴できます。ふくやま市議会だよりには質疑の一部を掲載しておりますが、各議員は、ほかにも多くの項目にわたって質問し、議論を繰り広げました。ぜひご覧ください。また、[福山市のホームページ](#)→[福山市議会](#)→[議会中継](#)→ここからも視聴できます。